



第57回日本化学療法学会総会学術講演会
教育セミナー 9

■テーマ

**臨床で問題となる耐性菌感染症：
的確に見抜き、適切に
治療するにはどうするか？**

■日時 2009年6月5日(金) 8:00 ~ 9:00

■会場 ホテル日航東京 第6会場(シリウスA) 東京都港区台場1-9-1

■座長 松島 敏春 先生 淳風会倉敷第一病院呼吸器センター長

■演者 大曲 貴夫 先生 静岡県立静岡がんセンター 感染症科 部長

- 要旨 近年様々な抗菌薬耐性菌が問題となっている。耐性菌感染の診療には複数の難しい点があり、感染症診療の枠組みの中で、耐性菌感染の診断・治療の一連の流れを適切に行うことが重要である。ポイントは何であろうか？
- 一つは的確な診断である。どの臓器にどのような微生物による感染があるかを的確に見抜くことが必要である。
- 二番目は、耐性菌感染のリスクを適切に見積もってEmpiric Therapyを選択することである。
- 三番目は治療薬の選択と治療計画の立案である。
- よりよい治療が模索されているMRSA、心内膜炎などの重症感染における決定的な治療に欠けるVRE感染、併用療法に活路が見いだされつつあるMDRP感染症、近年本邦でも検出率が高くなっており如何に的確に出現を予測して治療するかが焦点となっているESBL感染症など、個別の菌種毎に的確な治療計画を立てる必要がある。
- 当日はこの一連の流れについて、情報を提示する。

共催：第57回日本化学療法学会総会学術講演会
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

Answers for life.

SIEMENS